

姫路市を巡る「2020年問題」決着 特殊構造の床が解決のカギ

毎日新聞 2020年10月3日 08時00分 (最終更新 10月9日 16時50分)

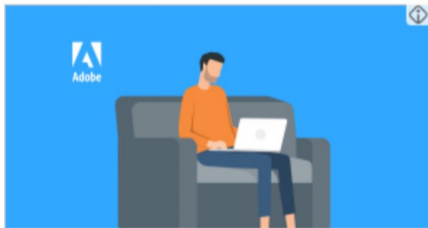
真下信幸

サーフィン > バラ・シッティングバレーボール > 兵庫県 > 東京都 > 速報 > その他のスポーツ > スポーツ >



世界遺産・姫路城の天守＝兵庫県姫路市で

[PR]



デザインもできる自分に
詳しくはこちら アドビ株式会社

東京オリンピック・パラリンピックの1年延期により、東京から約500キロ離れた兵庫県姫路市に降ってわいた「2020年問題」が解決した。解決の鍵は、ある特殊な「床」にあった。【真下信幸】

姫路市の2020年問題をおさらいしておきたい。東京パラリンピックに開催国枠で出場が決まっているシッティングバレーボールの女子日本代表は、姫路市役所の北別館を強化拠点として利用しており、国のナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点にも指定されていた。ところが、この施設は築30年に迫って老朽化が著しく、市は今年8月から改修工事を計画。東京大会が予定通り開催されていれば問題なかったが、延期で改修工事が大会前になってしまった。シッティングバレーは大会直前に強化拠点を失う事態になった。

市と日本パラバレーボール協会は代替施設探しに奔走した。日本代表チームにとどまってほしい市と、チームドクターら関係者が関西圏に多いことから引き続き姫路市に拠点を置きたい協会の意向が一致したためだ。



姫路市立書写養護学校の体育館内部。床材には衝撃吸収性に優れた「タラフレックス」が使われている＝兵庫県姫路市書写台3で（姫路市提供）

代替施設は、思わぬ存在を手がかりに見つかった。それは「タラフレックス」という特殊な床材だった。体育館の床材は板張りが主流だが、タラフレックスは塩化ビニールと発泡スポンジの2層構造になっていて衝撃吸収性に優れ、障害がある人たちのけが予防にもなる。バレーボールの国際仕様に指定されており、市役所北別館では板張りを改修して使用されていたが、改修には費用がかかるため常設の使用例はあまりない。この床材の使用実績を基に施設を絞り込むと、市立書写（しよしゃ）養護学校の存在が浮かび上がった。



シッティングバレーボール女子日本代表の新たな強化拠点に決まった姫路市立書写養護学校の体育館＝兵庫県姫路市書写台3で（姫路市提供）

肢体不自由特別支援学校の同校では、障害を抱える生徒たちのけが防止のために、体育館にタラフレックスが使われていた。ところが、体育館を使う部活動がなく、土日祝日の使用が年に数回程度に限られていることから、週末に合宿を実施することが多い日本代表と日程が重ならないことが分かった。冷暖房が完備され、バリアフリー設備が充実していることなども後押しし、8月末には市役所北別館に替わってNTC競技別強化拠点に指定された。

選手と生徒ふれあい 騒動が生んだ「贈り物」

女子日本代表の監督も務める協会の真野嘉久会長は「床材や設備面で練習に適した施設で、ほっとしている」と胸をなで下ろし、「急ぎ足のなか施設を見つけてくれた姫路市に感謝している」と話した。今後、新型コロナウイルスの感染状況も見ながら、早ければ10月中旬の合宿再開を目指している。



白熱した試合を繰り広げるシッティングバレーボール女子日本代表の選手たち＝千葉市中央区の千葉ポートアリーナで2019年5月25日、秋丸生帆撮影

また、真野会長は「選手と養護学校の生徒がふれあう機会も今後考えていきたい」とも話す。重度の障害を持つ約90人が通う書写養護学校と、パラリンピアン（パラリンピック出場選手）との交流にも前向きだ。中川靖敏校長も「生徒の練習見学などを実現できれば」と話し、「一生懸命練習に取り組む代表選手たちを見て、生徒たちが夢を持って努力することの大切さを感じるきっかけにしてほしい」と期待を寄せている。

